

# にいがた 畜産協会たより

公益社団法人  
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15  
全農にいがた第2ビル内  
TEL.025-234-6781~6783

## 特集「輝く☆女子力!」~自家産物でこだわり商品づくりに挑戦~



株式会社 神田酪農  
ソフトクリーム&ジェラートショップ「みるばす」



ロイヤルヒル - ホルスタインズ

### 目次

#### ◆特集「輝く☆女子力!」

— part 1 —

「愛情牛乳から生まれたこだわりジェラート」

阿賀野市：神田麻子さん ……………(2)

— part 2 —

「大好きな牛と新潟県産チーズに夢を託して」

新潟市江南区：坂井美幸さん ……………(3)

◆「上越畜産担い手グループの結成と私の想い」 …(4)

上越畜産担い手グループ リーダー 渡辺 洋一

◆村上地域の出品牛が上位入賞！

— 第60回新潟県肥育牛求評共励会 — ……………(5)

◆平成27年度新潟県子牛共進会開催 ……………(5)

◆家畜伝染病の発生に対する備えを強化しましょう！

— 平成27年度衛生指導課事業進捗状況 — …(6)

◆声のコーナー ……………(7)

「経営安定に向けて」

養豚経営：新潟市南区西笠巻新田 長沢 潤

「牛飼いを始めて」

肉用牛経営：上越市頸城区柿野 井沢 貴史

◆畜産安心ブランド生産農場だより ……………(8)

胎内市：(農)遠藤ファーム 遠藤 金一

◆新役員3名を選任 ……………(8)

◆畜産経営セミナーを開催予定 ……………(8)

◆編集後記 ……………(8)

## 『愛情牛乳』から生まれたこだわりジェラート

株式会社神田酪農 神田麻子さん

新潟県の酪農発祥の地、旧安田町で大正時代から100年近く続く酪農家。株式会社神田酪農は、大きな愛情をもって乳牛を育て、「とっても美味しい愛情牛乳」を消費者の方々に提供することをモットーとしています。



コクがあっておいしい神田酪農の牛乳と麻子さん

この酪農家に嫁いだ神田麻子さんは、子育てが一段落した14年前に就農し、毎日、朝夕の搾乳作業や、週2回の牛乳配達など多忙な日々を送っています。昨年7月、ソフトクリーム&ジェラートショップ『みるぱす』を開店し、麻子さんはその代表を務め、5人の従業員を束ねています。



以下は、『みるぱす』での麻子さんへのインタビューです。

Q. 開店のきっかけは？

A. 「2年前のイベントでジェラートを販売した際、大変好評で、異業種交流仲間の後押しや協力もあり、『みるぱす』を開店するに至りました。

Q. 製品の特徴は？

A. 「愛情込めて育てた乳牛からとれた風味豊かで優しい味の牛乳を100%使用しています。ジェラートに使う果物や野菜は自家栽培や地元産のものにこだわり、下ごしらえから行います。同じ果物や野菜でもひとつひとつ個性があるので、それを見極め毎回材料の分量や配合を変えています。新製品開発も従業員と代表取締役である夫と一緒に試行錯誤して取り組んでいます。」



Q. 今後の夢は？

A. 「牛乳から作れるチーズなどの製品を増やしていきたい、店舗数も拡大したい。今年は冬に新商品を販売する予定もあります。」

取材後、バターナッツかぼちゃ味のジェラートをいただきましたが、果肉が入っていて味にアクセントがあり、とてもおいしかったです。

今後の新製品もぜひ期待しています！

### ソフトクリーム&ジェラートショップ『みるぱす』

〒959-2215 阿賀野市六野瀬331番地

TEL 090-4917-0429

ホームページ

<http://www.kandarakunou.com/mirupasu/>  
(Facebookもこちらからアクセスできます。)

※営業時間等はホームページをご覧ください。

牧場体験も  
できます♥



## 大好きな牛と新潟県産チーズに夢を託して

ロイヤルヒル-ホルスタインズ 坂井美幸さん

阿賀野市の稲作兼業農家出身である坂井美幸さんは、農業高校在学中に北海道で酪農実習を経験。酪農の面白さに目覚め、帯広畜産大学に進学しました。卒業後は新潟に戻り、酪農ヘルパーとして働き、酪農家の坂井武史さんと出会い結婚。今では3人の男の子に恵まれ、多忙な毎日を送っています。



共進会で牛をリードする美幸さん

美幸さんは今年の春からチーズの製造、販売を始めました。

以前から取引のあったレストランの関係者から「バターやチーズも売ってほしい。」という要望があり、それがきっかけでチーズの試作をはじめ、本格的に商品開発をするため県外で製法を学びました。

現在は週2日程1人で製造を行い、週末に数量限定で「ファーマーズ・マーケットいっぺこ〜と（新潟市西区亀貝）」と「えんでばよごし（新潟市江南区横越）」に商品を卸しています。



「さけるチーズ」の製造

「美味しいチーズは、美味しい牛乳から。美味しい牛乳は、健康な牛から。」美幸さんはそう考え、愛情を込めて育てた牛の生乳で、風味豊かなチーズをひとつひとつ丁寧に手作りしています。

美幸さんに将来の夢を伺いました。

「将来は現在給与中の自家牧草に加え、新潟県産飼料用米を給与して飼料自給率60%を目指したい。そこから生産される新鮮な生乳を使用しチーズの製造量を増やすと共に、牛舎のすぐ横に建設する予定の工房で新商品としてカチョカバロやスカモルツァといった短期熟成チーズの開発にも挑戦したい。3人の子供たちが楽しそうに酪農をする両親を見て『酪農っておもしろいな。魅力的だな。』と感じられるような経営をしていきたいです。」と語ってくれました。

「酪農は大変そうって言われるけど、私は牛が大好きなので毎日が楽しいんです。」そう笑顔で語る美幸さんを見て酪農は彼女の天職なのだなと感じました。

これからも美味しいチーズを届けてください！



美幸さんが丹精込めて作った商品



さまざまな料理にアレンジ♪

## 「上越畜産担い手グループの結成と私の思い」

上越畜産担い手グループ リーダー 渡辺 洋一

昨年上越地域に「上越畜産担い手グループ」という集まりができました。メンバーは若手の酪農家や和牛肥育農家の後継者、和牛繁殖農家、それに酪農ヘルパー等です。サポートとして家畜保健衛生所や家畜診療所、JA、市や普及センターからも参加頂いています。まだ発足したばかりで手探りの状況ではありますが、上越地域の畜産を盛り上げるために仲間作りを進めています。今のところはメンバー同士の交流を深めるためにお互いの牛舎を見学したり、一緒にお昼を食べながら互いの経営概況や問題点、これからの経営課題について話し合う座談会を開いたりしています。それぞれの良い点や改善した方がよい点を話し合い、より良い飼養管理ができるように繋げていければと考えています。その他にも、担い手グループがこれから新しく畜産に従事してみたいという人に対して相談の窓口になれるようにしていきたいです。



畜産担い手グループの発会式（平成26年12月）

我が家でも以前から地元農業高校や農業大学校から研修生を受け入れてきましたが、そのほとんどが非農家出身です。幼少期から農作業に追われ働く親を見て育った農家の子供達は、農業の大変さを身近に感じているためか農家の後継者を選ぶよりも就職する事が多い反面、高校や大学等で農業を学び興味を持った非農家出身の学生が農業を志す事が多いように感じます。

しかし実際に就農するとなると、親の施設・設備がある後継者とゼロから始める新規就農者ではスタートラインから大きな差があります。私自身も父の後を継ぐ形で肥育農家の後継者となりましたが、これがゼロから始めるとした場合、ほぼ不可能だった

と今では考えています。最近では農林水産省の新規就農者対策として就農給付金ができ、農業を始めやすい環境にはなりましたが農業で生活できるだけの所得が得やすくなった訳では無く、補助金が無くなった後に大きな借り入れだけが残り経営が立ち行かなくなるケースも多々あるように思えます。



グループでの牛舎の見学（一番右が本人）

私は平成15年頃から地元企業に勤める合間に農作業を手伝っていましたが平成20年に50頭規模の肥育牛舎を増設して飼養規模を拡大し、その後、稲作との複合経営の後継者として経営に参画しました。当初から就農後少なくとも3年間は無給を覚悟していましたが、実際に素牛の導入や餌代等の回転資金をやり繰りしていく中で私の給料が出る余裕はとてありませんでした。4年程前から規模拡大がようやく軌道に乗るようになり、やっと給料がもらえる経営にすることができましたが、素牛の高騰に悩まされ気が抜けません。今は稲刈りと肥育牛の飼養管理・ワラ集めと多忙な毎日ですが、以前は前を歩いていた父と並んで仕事ができるようになり喜びを感じています。農家の後継者も意外と悪いものではないなあとと思う今日この頃です。

今後、担い手グループの活動を通じ、各自の思い、構想、経験などを語り合い、仲間同士切磋琢磨しながら、上越地域の畜産を盛り上げて行きたいと考えています。



## 村上地域の出品牛が上位入賞！ ～第60回新潟県肥育牛求評共励会～

全農新潟県本部主催の「第60回新潟県肥育牛求評共励会」が10月13日から15日にかけて、東京都中央卸売市場食肉市場で開催されました。

この共励会は、首都圏での「にいがた和牛」の認知度向上と飼養技術の高位平準化を目的として開催されており、当協会及びにいがた和牛推進協議会も後援しています。

なお、第1回共励会は昭和31年に開催され、本年、60回目の節目を迎えたことから、10月14日には記念祝賀会が「大森東急REIホテル」において盛大に開催されました。

今回、出品された黒毛和種36頭（うち雌牛7頭）の成績を見ると、枝肉格付5等級が25頭（69%）と前年の15頭（42%）を大幅に上回り、4等級以上も35頭（97%）（前年：32頭（89%））と優れた品質であり、市場関係者からは高い評価を受けました。

しかし、課題として枝肉重量、ロース芯面積のバラツキが大きいことが指摘されました。

また、出品牛のうち県内産素牛は16頭（44%）で前年の20頭（56%）に比べ減少し、逆に、秋田県産が3頭（前年なし）、群馬県産が3頭（前年1頭）と増加しました。

入賞牛8頭のうち県内産素牛は2頭（入賞牛の25%）で前年の3頭（入賞牛の38%）よりさらに減少し、繁殖牛の一層の資質向上が望まれます。

当協会は、最優秀賞、優秀賞1席、2席に入賞した3名を褒賞し、また、にいがた和牛推進協議会は、最優秀賞、優秀賞1席に入賞した2名を褒賞し、さらに枝肉（雌、去勢）を最高値で落札した買参人それぞれに感謝状と記念品を贈呈しました。



最優秀賞を受賞した漆間氏の枝肉（BMS No.11）

### 受賞者（敬称略）

褒賞区分	受賞者氏名	出品牛性別
最優秀賞	漆間平	去勢
優秀賞1席	坂上清一	去勢
優秀賞2席	小野耕司	去勢
優秀賞3席	(株)三国	去勢

一方、記念祝賀会においては、長年にわたり「にいがた和牛」の振興に尽力された出品功労者10名と優秀出品者3名に表彰状が授与され、販売に尽力されてきた販売功労者3社（株式会社よね一、株式会社タカノ、株式会社三国）に感謝状と記念品が贈呈されました。



表彰を受けた出品功労者及び優秀出品者

## 平成27年度新潟県子牛共進会開催

平成27年9月25日、全農新潟県本部主催により上越家畜市場で開催され、県内10農協の18戸の生産者が合計21頭（うち雌牛6頭）の子牛を出品、上越家畜保健衛生所の荻野所長ほか2名が審査を行いました。受賞者は次のとおりで、当協会からは最優秀賞受賞者に賞状、副賞を授与しました。

区分	部門	名号	所属JA	生産者
最優秀賞	雌の部	はななつみ5	新潟みらい	渡辺 俊行
	去勢の部	津川190	新潟みらい	渡辺 崇
優秀賞	去勢の部	舞北	にいがた岩船	小池 直哉
		北乃次郎	魚沼みなみ	阿部 吉光

また、続いて開催された子牛市場では、95頭（うち雌牛46頭）が上場され、全頭が取引されました。

市場成績は次のとおりとなりました。

区分	雌	去勢	合計・平均	前回比
出品頭数	46頭	49頭	95頭	▲30頭
最高価格(税抜)	640,000円	777,000円	777,000円	29,000円
最低価格(税抜)	459,000円	460,000円	459,000円	59,000円
平均価格(税抜)	554,522円	663,000円	610,474円	53,176円

## 家畜伝染病の発生に対する備えを強化しましょう！

— 平成27年度衛生指導課事業進捗状況 —

### ○豚流行性下痢（PED）防疫対応

#### （PEDまん延防止体制支援強化事業）

今年度の新規事業で、大きく分けて3事業が含まれ、地域防疫計画策定、管理獣医師による農場巡回、発生農場における清浄化モデル事業となっています。既に地域計画を策定し、その新潟県計画に基づいて対策が実施されていますが、県内122全農場の獣医師による巡回は9～11月、発生農場清浄化モデル事業は9月からスタートしています。また、PEDウイルスの農場侵入防止対策の講演会を10月21日に開催しました。関係者の関心の高さがうかがわれ、多くの参加者がありました。今後とも新潟県内で再発生がないような対応を心がけていきたいものです。

引き続き進入防止対策の徹底を実施しましょう。

### ○地域における防疫演習（自衛防疫体制強化推進事業）

昨年度に引き続き、今年度も県内3会場で実施します。この事業は生産者を中心とした防疫演習で、生産者の皆さんに口蹄疫発生シミュレーションを体験してもらい、消毒液の作成方法、消毒の方法を演習し、踏み込み消毒槽、防疫衣および長靴等、初動防疫セットを配布します。電動消毒器も整備します。

今年度は11月11日柏崎地域振興局会場（JA柏崎旧北条支店）、11月16日上越市のJAえちご上越会場、11月19日新潟地域振興局巻農業振興部庁舎会場で実施します。

多くの参加をお持ちしています。



【防疫演習の机上シミュレーション】

### ○家畜防疫互助基金契約状況

口蹄疫等が発生した場合に飼養家畜を処分した農場の経営再開を支援するため、生産者が造成した基金に国が助成して互助補償を行う家畜防疫互助事業は、今年度で第7事業年度となり更新がなされました。加入は下記のとおりで、例年とおおり、牛は加入率がほぼ9割ですが、豚は6割に留まりました。万が一に備えて全戸加入を目指しましょう。

#### 平成27年度家畜防疫互助事業契約状況

畜種	戸数	頭数
乳用牛	201 (91%)	7,483
肉用牛	200 (87%)	13,768
豚	68 (61%)	147,442

注：（ ）内は県内飼養戸数に対する加入率

### ○畜産安心ブランド認定事業

平成15年度に豚の認定事業を主体としたクリーンポーク認定事業がスタートし、平成17年度に全畜種に拡大した本事業も10年が経過しました。安全な畜産物を生産するという観点からは必要不可欠な方法・システムであるとの認識が深まってきました。

今年度の日程は獣医師および家畜保健衛生所からの推薦書が11月13日までに提出され、11月中旬から12月上旬にかけて現地審査を実施します。12月17日に13名の認定委員による審査会が行われます。

平成27年4月1日現在の認定は下記のとおりです。

	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏	計
認定戸数	75	73	54	24	19	245
認定割合	34.2	62.9	48.6	57.1	82.6	47.9%



認定マーク



養豚経営

新潟市南区西笠巻新田  
長沢 潤



肉用牛経営

上越市頸城区柿野  
井沢 貴史



## 『経営安定に向けて』

私の家では養豚と稲作の複合経営をしており、私自身は就農してから養豚の方を担当しています。就農してからまだ4年しか経っていないため、分からないことや学ぶべきことが多いと感じる毎日であり、母豚70頭ほどの小規模な農場ですが、手作業が多いので体力的にもとても大変な毎日を送っています。

今年の夏、農協の薦めもあり、初めて畜産協会の経営改善指導（コンサル）を受診してみました。そこで確認できたことは、肝心の農場成績がまだまだで良い状況とはとても言えず、改善しなければならない点が多くあったことです。

コンサルを受けた直後は、正直言って落ち込みました。しかし今では成績が悪く落ち込むのではなく、伸びしろがたくさんあると前向きに考え、改善に取り組む意欲が沸いています（笑）

コンサルで指摘されたこと全てを一度に改善することは難しいと思いますが、出来ることからコツコツとやっていき確実に前に進めるように努力していきたいです。

幸い、普及センターや家畜保健衛生所、農協などの関係者の方々のアドバイスもあり、繁殖成績の向上や飼料コスト低減のための飼料用米活用などに取り組んでいます。

これから先もTPP、飼料価格の高騰、豚価の低迷（去年、今年はいいですが）、伝染病など不安要素はたくさんありますが、今後も養豚を続けられるよう日々励んでいきたいと考えております。

## 『牛飼いを始めて』

私は、高校を卒業後ほどなくして、家業である牛飼いを始めました。と言っても、私が卒業したのは工業科という畜産とは別の分野でしたので、牛の事はほとんどわからないまま就農しました。

子供の頃に手伝いをした経験しかなかったため、就農した当初は毎日がとても大変で、搾乳のほか、牛の餌作りのため、夏はホールクロップサイレージを作ったり、秋にはデントコーンサイレージを作ったりなど、トラクターにも乗った事のない私には、大変な作業でした。

数年は家業の酪農をしていたのですが、親も高齢になり一人で酪農を続けるのも少し厳しいと思い始め、今から5年ほど前に独立し、和牛の繁殖を始めました。それまで世話をしていたホルスタインとは飼料も違う、育て方も違うで毎日が勉強です。今いる牛の血統にはどの種が合うか、肉質を良くするには、増体を良くするにはどのような種をどの血統の母牛に使うか、飼料は何が良いのかなど、色々な研修会に出席したり、人に聞いたりしながら、今より少しでも良い牛を作れるようにと思い毎日仕事をしています。

最近では、後継者がおらず高齢のため廃業を余儀なくされる農家さんも少なくありません。家畜市場に出品される子牛が減れば、買いに来てくださる人も減って、新潟の畜産が衰退してしまうのではないかと心配しています。そんな今だからこそ、私は規模拡大して、少しでも多くの子牛を家畜市場に出品することで新潟の畜産を盛り上げ、次の世代の子達が牛飼いをしたいと思ってもらえるような基盤を作っていきたいと思っています。

## 畜産安心ブランド生産農場だより

胎内市：(農) 遠藤ファーム 遠藤 金一

(農) 遠藤ファームは胎内市で私を含め従業員2名とパート1名で黒毛和種肥育90頭と水稻10haの複合経営を行っています。稲わらは全て自家産であり、草地4haで乾草も生産しています。

父親が豚を飼っていましたが、昭和52年に勤めを辞めて就農する際、家内が優しい目をした牛が良いということで、ホル雄肥育を始めました。平成6年には交雑種肥育、20年には現在の黒毛和種肥育に切り替えて38年牛を飼い続けています。7年に道路拡張による牛舎移転、19年には法人化、家畜商免許の取得を行うなど精力的に経営してきましたが、最大の危機は19年の資金繰りと23年に稲わらロールの下敷きになって、大けがをして入院したことです。幸い、良い仲間に支えられ危機を乗り越えられました。

牛肉の販路を確保して、安全な自家産粗飼料の給与と18年に認定された「クリーンビーフ認定農場」を売りにして「遠藤ブランド」を確立することと後継者を確保することが今後の目標です。目標達成に向け、さらに安全で高品質の牛肉生産を目指し、新たな取組に挑戦していきたいと思えます。



## 新役員3名を選任

本年5月に開催した平成27年度定時総会以降、理事2名、監事1名から辞任届が提出されたことから、9月に役員候補者の応募・推薦を募り、10月に書面による臨時総会を開催しました。

その結果、全会員の同意により、下記のとおり新たに理事2名、監事1名を選任しました。

なお、任期は平成27年10月9日から平成28年度定時総会までとなります。

### ◆新理事

桑原 隆	新潟県信用農業協同組合 連合会代表理事理事長
五十嵐 正美	全国農業協同組合連合会 新潟県本部県本部長

### ◆新監事

齊藤 孝夫	佐渡農業協同組合 経営管理委員会会長
-------	-----------------------

## 畜産経営セミナーを開催予定

畜産関係者を対象としたセミナーを開催予定です。詳細は追ってお知らせします。

日時：平成27年12月2日（水）

場所：全農にいがた4階「大会議室」

時間：13：30～16：00

## 編集後記

今年も残り2ヵ月となりました。

新年の抱負を立てたばかりと思っていたのに、あっという間に時間が経ってしまったような気がします。

紅葉シーズンですね。県内の今秋は天気は周期変化し、高気圧に覆われる日は十分な日照と朝晩の冷え込みがあり、鮮やかな紅葉が期待できるそうです。ところで、紅葉を見に行くことを「紅葉狩り」と言いますよね。この「紅葉狩り」と言葉、私はずっと違和感がありました。なぜ「紅葉狩り」なのでしょう。

紅葉狩りの「狩り」は、鳥獣狩りの「狩り」と同じ意味で、平安時代には狩猟をしない貴族が現れ、自然を愛でることを狩りに例えたこと、実際に紅葉した木の枝を折り（現代ではマナー違反ですが…）、葉を手にとって鑑賞したことから「紅葉狩り」と言うようになったそうです。皆さんは紅葉狩りに行きますか？

さて、今月号は「輝く☆女子力！」と題して特集をさせていただきました。

担当者として取材させていただきましたが、夢を持って活動されているお二方は題名のとおりとても輝いていて、同じ女性として素敵だなと思いました。お二方、本当にありがとうございました。

これから寒い季節になりますが、人も家畜も元気にお過ごしください。

(鈴木奈 記)